

9 月度 <sup>例会</sup> <sub>個人</sub> 山行報告書		報告者	神戸	参加 メンバー	DN :神戸、藤本、他参加 山岳会(織機 :2名、豊田 山岳会、岡崎山岳会、豊川 山岳会など)
		報告日	10/12		
山 域	鈴鹿	山行日	2017年9月30日(土) ~		
山 名	御在所山(北谷小屋付近)		10月1日(日)		

山行目的	愛知山岳連盟行事(無雪期救助講習)	コースタイム(天候:天気図記号)
------	-------------------	------------------

配布先  
集会:12  
山行:1  
リーダー  
原紙:集  
会担当者

1日見下図(ドまでの読図講習(地図を見て正確に) ハライド

2.5万分の1地図: [御在所山]

9/30 晴れ後曇り  
8:50 北谷小屋前開会式  
9:00 コース(縦走、確保、実践)に分かれ講習。DNは縦走で参加。トラバースロープの渡り方練習。  
9:30-15:45 ハライド(908m)まで読図講習  
16:00-16:30 国際山岳医三浦裕氏の講習  
解散~ 小屋にて歓談

10/1 曇り  
8:00-10:00 北谷小屋内で国際山岳医三浦氏、看護師浦川氏によるファーストエイド、救助講習  
10:00-10:30 指導員による搬送方法の紹介  
10:30-12:00 北谷小屋から

北に150m程の確保練習場所に移動。コースに分かれ、各コースのチームで搬送シミュレーション練習。  
13:00-14:45 実践コースの吊り上げ救助・確保コースの斜張り搬送。各チームによる搬送まで、全体の流れで訓練実施。  
15:00-閉会式  
15:20 解散

<山行報告>今回は縦走コースに参加。吊り上げの1/3や1/5システムは覚えなかったが資料は戴いた。コース1日目は、トラバースのカラビナ掛け替え及び読図だった。猿投山の読図講習の様に各人がリーダーとなり、区間を区切って、なぜここが目的地なのかを解説する手法だった。私は1番手で平地の川沿いだったので歩数で場所特定し川の向きで特定しようと思った。ところがもらった地図の尺度を確認せず2倍拡大図だったのに2万5千図と同じだけ進んでしまい、地図の渡渉部分まで行ってしまった。その後は踏跡の薄い道や落石の多い道ではロープを張ったりし、なぜ道がこのようにしているか地形を見て勉強になった。ハライドの頂上では風が強かったが休憩時に皆で被ったツェルトの保温能力に皆が驚いた。これら講習で学んだ事は皆に展開したい。1日目の最後に国際山岳医(愛知で最初)の三浦氏の講義が30分あった。「捻挫」:傷病部位は心臓より高く上げること。「肺損傷」:ペットボトルの模型で説明。呼吸は横隔膜が司るので頸椎の神経損傷には注意、外傷性肺気腫にはラップ3辺止め、胸郭破壊にはタオルを詰めてテーピング。「首」:人体骨格標本で頸椎から骨盤にかけての神経を説明、交感神経節が血管の収縮を司る。滑落など高エネルギー障害時はまず頸椎損傷を疑い、首はナチュラルポジションで固定する。「出血」:押さえて止血する。縛らない。など。2日目は遭難者の介護の仕方の講習。救助要請には「状況評価」そこまで安全に行けるか、「1次評価」呼吸、循環(血)、神経はどうか、「2次評価」頭から体幹、全身を評価する(末梢は後)。

本日に「S.A.M.P.L.E」を聞き、記録する。搬送実習で、毛布替わりのツェルトにロープを入れた首固定方法を皆で試した。9/26机土講習は、ロープワーク・搬送方法の実際の体験ができた。(織機のS伯、Y田両氏も参加していた)そこでカッパにペットボトルの蓋でスリングを結ぶのを見て当日持参した。

要救助者に聞く事(姓名、生年月日。時間も記録)  
S: Symptoms (症状)  
A: Allergies (アレルギー)  
M: Medications (薬)  
P: Pertinent History (関連ある傷病履歴)  
L: Last 飲食  
E: Event (起こったこと)

<リーダー所見> 縦走主体のDN山岳部にもファーストエイド知識、搬送のベースとなる岩登り技術・知識が必要だと思う。私は年齢的に何回も教わらないと身に付かないので愛岳の講習会に参加しているが、若い皆さんには1回でも実体験した方がいいと切に思う。今回は国際山岳医の講習がハイライトであった。

確認(リーダー)  
神戸  
17/10/03  
作成(報告者)  
神戸  
17/10/03